



期待が高まる WEB シンポジウムによるエレクトロヒートの更なる普及

内山 洋司 一般社団法人 日本エレクトロヒートセンター 代表理事・会長

第16回エレクトロヒートシンポジウムが、新型コロナウイルス感染症の影響を避けるため前回と同様にオンラインにて開催されました。今回の開催テーマは「産業電化が導くカーボンニュートラルの未来」で、開催期間は11月1日から1ヶ月間と前回の2ヶ月に比べて短い期間でした。期間を短くしたにも係わらず、参加登録者数は3,600人近くもあり、前回の約2,700人に比べて非常に多くの方々に参加して頂きました。

今回のシンポジウムは、2020年11月に菅前首相によって表明された2050年カーボンニュートラル宣言と、その後2021年3月にエネルギー基本計画によって掲げられた2030年度までに二酸化炭素の排出量を13年度比で46%削減する政府方針を受けての開催でした。また、11月にはCOP26がイギリス、グラスゴーにて開催されたこともあり、多くの人々に気候変動対策への関心が高まっていました。今回のシンポジウムに会員である電力会社やメーカーだけでなく非会員であるユーザーなど各層から多くの方々に参加して頂いたことは、気候変動対策について世の中の関心が高まってきている表れと考えられます。

参加数が大幅に増えた他の理由として、オンライン開催のメリットが生かされたこともあります。WEBによるオンライン開催には、開催期間の長期化、メニュー数の増加、参加者の都合に合った「何時でも」「何処でも」「何度でも」アクセスできる良さがあります。さらに、参加者は会場に出向かなくても全国各地から気軽に参加でき、関心の高いテーマだけを選択することができます。また、参加者の増加には、主催者挨拶・開催趣旨、基調講演、特別公演、技術発表、技術展示などコンテンツへのアクセス方法が前回よりも工夫されたこともあると思います。

しかし、オンライン開催にはデメリットもあります。会場の借用費用や設定作業は省けますが、講演者の発表内容と展示物の紹介については事前のビデオ撮りが必要になります。また、展示物を実際に見たときに感じる臨場感の乏しさや、人との直接対話ならではの親密感が得られにくくなります。今後は、デメリットをできるだけ少なくするコンテンツの改善や、メリットをさらに発展していくWEBによるオンライン開催の工夫が必要になります。

「産業電化」によるカーボンニュートラルの未来に向けて、私たち日本エレクトロヒートセンターは強く後押ししていきたいと考えています。令和4年度以降も、より多くの方々に関心が持たれるWEBによる「エレクトロヒートシンポジウム」をオンラインにて開催し、その発展に職員一同努力して参りますので、引き続き皆様のご協力とご支援を宜しくお願い致します。